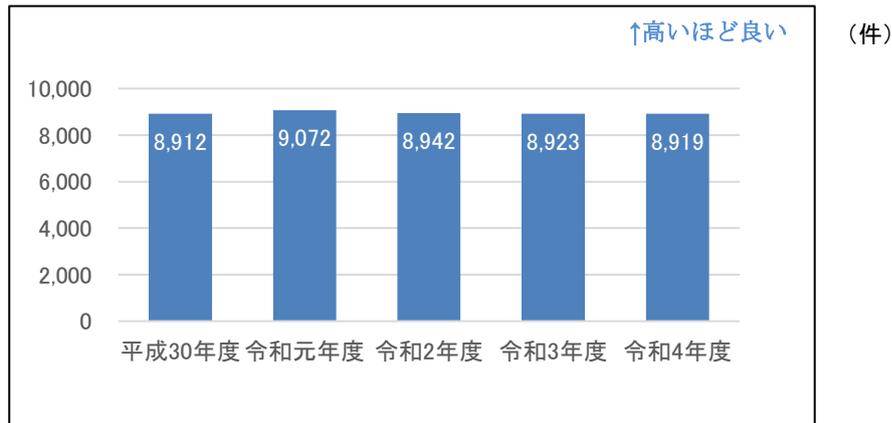


17 病理組織診断件数

○項目の解説

病理診断の結果に基づいて、治療の必要性や治療方法が選択されます。病気の最終・確定診断がどの程度行われているかを表す指標です。

○当院の実績



○当院の自己点検評価

病理組織診断件数は、平成29年度以降堅調に推移し、令和元年度には9,000件を越えましたが、令和2年度以降はほぼ横ばいで推移しています。令和2年1月以降は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、病院受診者数ならびに手術件数の減少の影響が懸念されましたが、横ばいを維持していることはむしろ評価に値すると思います。また、近年急速に進展している「がんゲノム医療」に伴い、遺伝子検査用の標本作製件数は増加傾向が見られます。また、本格稼働となった令和元年度は333件でしたが、令和4年度には678件と、倍増しています。遺伝子検査に基づく治療の進歩は飛躍的に進んでおり、今後更なる実施件数の増加、診療への貢献度は増していくものと考えています。また病理部・病理診断科は、令和3年10月に国際規格であるISO15189の認証を取得し、高い精度が保証された病理診断の提供と、がんゲノム医療を含む診療支援が求められることも特記すべき事項と考えます。精度の高い病理診断には臨床検査技師及び病理医の確保が必須ですが、現在では、認定病理検査技師3名を含む7名の臨床検査技師、非常勤医師を合わせて6名の認定病理専門医が所属しており、診断の質の向上を心がけています。

○定義

DPC データを元に算出した、当該年度1年間の医科診療報酬点数表における、「N000 病理組織標本作製(T-M)」および「N003 術中迅速病理組織標本作製(T-M/OP)」の算定件数です。

入院と外来の合計として、細胞診は含めません。

○算式

実数